

## 第28回呼吸ディスカッションの会

日時：2015年3月21日（土） 19:00～21:30（開場 18:45～）

場所：リトル上海（5階 ビゴロッソ）

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通 1-3-5 / 電話 050-5788-1525

URL: <http://r.gnavi.co.jp/ka2f800/>

会費：7,000円（学生 4,000円）

### 講演1（19:15～）

演者：細貝正江 先生（出雲医療看護専門学校／鳥取大学適応生理・定年退職）

演題：延髄縫線核 –振り返って–

脳幹正中部の縫線核は運動、感覚、自律神経系などの各種機能の調節に関与することが知られている。延髄の正中部を刺激すると呼吸運動が変化することが数多く報告されてきたが詳細は明らかでない。電気生理学的手法を用いて延髄縫線核において呼吸性ニューロンを同定した結果、延髄縫線核には種々の発火様式の呼吸性ニューロンが存在し、その中には横隔神経核に投射するものや、炭酸ガスに対して感受性を持つものがあった。さらに延髄縫線核にカイニンサンを注入して呼吸運動への影響を調べた結果、注入後、呼吸頻度は一時的に増加したがその後減少し、永久的無呼吸に至った。これらの結果は、延髄縫線核が呼吸運動の調節に関与することを示唆する。

### 講演2（20:15～）

演者：木村直史 先生（東京慈恵会医科大学・薬理学講座）

演題：あくびの起源と呼吸運動

あくびは多くの脊椎動物にみられる定型行動である。哺乳類のあくびは、開口と深吸気、上半身の伸展などで特徴づけられる。しかし、水生のカメ類、両生類および系統発生的に古い空気呼吸魚は、あくびの際に喉頭口を開口せず、肺換気を伴わない。あくび様行動は肺を欠く軟骨魚類にもみられる。あくびの系統発生的起源および呼吸運動との関連について考察する。

世話人：北 一郎（首都大学東京人間健康科学研究科）

連絡先：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域

電話 042-677-2973

E-mail [kita-ichiro@tmu.ac.jp](mailto:kita-ichiro@tmu.ac.jp)

進行プログラム

- 18:45 頃 準備、受付
- 19:00- 開会の辞～お食事
- 19:15-20:00 **講演 1**：細貝正江 先生（出雲医療看護専門学校）  
「延髄縫線核 –振り返って-」  
ディスカッション

歓談

- 20:15-21:00 **講演 2**：木村直文 先生（東京慈恵会医科大学）  
「あくびの起源と呼吸運動」  
ディスカッション
- 21:20 頃 閉会の辞  
次回のお知らせ 呼吸ディスカッションの会当番世話人（政岡ゆり先生）